

ASEAN Young Women Leadership Program

サンカルロス大学留学便り 最終回

経営学部 4年 相川 陽香

7ヶ月間のセブ島留学が終了しようとしています。長い様であつという間に時間が過ぎてしまいました。私にとって、私生活・学校生活のすべてが初めての経験でした。嫌なことも良いことも含めて忘れられない経験になりました。特に印象深かった3つをご紹介します。

セブで暮らして1番大変だったのが文化・環境の違いでした。現地の学校に通い毎日フィリピン人と接してみても日本の様にすぐ相手を理解してあげることができませんでした。友達と話している時の言葉の言い回しに苦戦しました。どんな言葉を選んで話せば相手を不快な気持ちにさせないか常に気をつけて話しました。明るく、オープンな性格のフィリピン人でもどこまで踏み込んで話して良いのか、どのように気を遣えば良いのかとても迷いました。宗教文化では、苦勞することはありませんでしたが育ってきた環境の差でストレスを感じることはありました。どこでも大音量の音楽で熱唱それを強要、お話大好き特に質問するのが大好き。やりすぎだと思う時は、相手に自分の気持ちを伝えながら良い関係を相手と築くことができたと思います。時間にルーズ、すぐ予定を忘れるフィリピン人ですがそれを含めて大切な友達ができました。

2つめは、英語学習についてです。今まで日本で文法の授業は受けてきましたが、コミュニケーションの仕方は習ってきませんでした。そのため、自信を持って会話をすることができなく、どもりどもりの話し方になってしまいました。相手に簡潔に伝えないと変な顔をされたり不快に思われることが多かったのでいかに自然に話せるかを習得するのが難しかったです。周りの友達には、たくさん励ましてもらいました。“上達したね”の一言がとても嬉しかったです。また、私だけでなくフィリピン人、韓国人の友達も英語に悩みを抱えていました。“私の英語どうかな？”と聞かれることもありました。私より数倍、流暢に話しているのに関わらずその質問をされた時はショックを受けました。第二母国語の国ならではの経験でした。ネイティブに近づくためにたくさん英語で話したのは良い思い出です。

また、韓国人とも友達になる機会がありました。私は、韓国人の方が早く馴染むことができました。韓国人とは金銭感覚が合い友達と遊びに行くときのお店決めや移動手段をスムーズに行うことができました。フィリピン人と行くと“もっと安いところ”がいいと言われることが多くお店を決めるのにも一苦勞でした。金銭感覚は友達を作る上で大切なのかなと感じました。また、フィリピンで抱えた悩みは韓国人によく共感してもらえることが多くお互いの悩みを話し合えるいい仲でした。

3つめは、全てがサバイバルなことです。電車もなければ、バスもないジプニーで生活。もちろん時刻表もない。そんな中で生活するのは、毎日がサバイバルでした。最初は、ジプニーの乗り方も分からない、道路の渡り方も分からない全てが分からないだらけでした。些細なことで周りの人を頼り、迷惑をかけるのはとてもストレスが溜まりました。早く自立しなきゃと焦る日が続きました。1から全て頼るのは、とても辛くたくさんの人に迷惑をかけてしまいました。周りに頼りながらも少しずつ自分でなんとかしながら成長することができました。少したくましくなったのではないのでしょうか。最後の方は、地元の人よりもセブに詳しくなったと思います。すっかり現地の人だねと言われることもありました。

この留学で、人の温かさをたくさん感じられました。人と関わるが多かったです。改めて、人のありがたみを感じる留学生活でした。また、辛い時も嬉しい時も支え合ってくれた町田さんに感謝しています。次のミャンマーもたくさん吸収できるようにアンテナを張って生活したいです。



クラスメイト